

採点欄

令和七年度入学試験

国語解答紙(その1)

問一
問二
問三
問四
問五
問六
問七

ア	宛先	イ	依然	ウ	潮流	エ	装い
カ	①	キ	②	ク	①		
ケ	②						

直感的に相手のすべてを即座に把握でき、また相手も自分のことを、なんの変形も歪曲もなく、有りのままで受け止めていると確信されるような関係で結ばれている友人、ということ。

これまでは人の全体性を透明に了解するために仮構された「内面」という虚焦点によって内面同士の距離の遠近が測られていたが、現代の若者は複数の虚焦点、つまり核を持ち、相手や場面によって異なった核が関係を結んでいるので、通常の遠近法が成り立たなくなっているのではないか、ということ。

二〇世紀後半に近代社会が転換点を迎え、親密性のあり方が持続への予期を含む「関係」からいつでも取り消し可能な「接続」へと置き換えられた、という見立ては、現代の若者のあつさり志向、ひとり志向の上昇や、拡張志向や話し合い志向の低下、使い分け志向の上昇、という傾向に合致している、ということ。

(1)		(2)
前者	近代的な関係	
後者	美的コミュニティ	

「なかよくなるのとは別の方向性を含んでいる」とは、たとえば友情が育まれなくても、関心事を共有する仲間との協働はそれ自体として価値を持っている、ということである。例えば、アニメという共通の関心事の追求のためにイベントで「つきあい」をはじめ、そこで友情が生まれなかったとしても、つきあいそれ自体に人びとのつながりとしての肯定的な質が含まれ、楽しさや喜びを共有できる、ということである。

氏名

受験番号

合計点

採点欄

令和七年度入学試験

国語 解答紙(その2)

問一	① 過去	② 断定
問二	ア 中納言から母上	イ 作者から姫君

唐へ渡ったときは行く先もわからない不安や心細さに駆られていたが、せめて命だけでもあるなら三年以内には必ず帰国しようと思いついて決意していたから。后との間に生まれた若君のこと。

問五 (1) 若君が、ますます白く美しく、光り輝くようになるということ。

(2) 母である后から、道中に乳の代わりとして飲むように渡された薬に不思議な効果があったから。

問六 (1) 「こがれ」が恋い焦がれる意の「焦がれ」と、舟を漕ぐの「漕がれ」の掛詞。

(2) 恋しい姫君に会いたくて、遠い唐の国から風のやむ間も惜しみ早船を漕いで戻って来たという気持ち。
 問七 都では、中納言は唐の王となって永久に帰国はかなわないとの噂で、人々も悲しんでおり、母上も帰国はないものと悲嘆に暮れていたところ、中納言から帰国を知らせる手紙が届き嬉しさで何も考えられなくなっている気持ち。

問一	① まさに	② すでに	③ いえ(へ)ども
----	-------	-------	-----------

問二 よりてつぶさにしかるゆえ(ゑ)んのじょう(じやう)をいう(ふ)

問三 私は賈誼以上だと思っていた。いま及ばないことが分かった。

問四 賈誼の才能は比類ないものであるにもかかわらず、文帝の質問の内容が、政治上の民衆に関わることでなく、鬼神に関する神秘的な事柄だったので、賈誼の才能を活かしきれないことを残念だと言っている。

問五 Iでは質問に対して文帝も感嘆するほど見事に返答する賈誼の才能を称賛する内容だが、IIでは才能のある賈誼を現実の政治でうまく活かせていない文帝を批判する意図で用いられているところが、本来の趣旨と異なるということ。

氏名

受験番号

合計点